

けいはんな R&D イノベーションフォーラム 2024

けいはんな学研都市先端シーズフォーラムとの合同開催

フードテック × 和食、 未来はここから始まる

～ 和食の新たな章が世界を魅了する ～

2024年12月20日(金) 一般公開 WEBセミナー (開始14:30)

今回のセミナーはオンライン形式で行います。接続情報等は、参加申込された際の受付メールに記載します。

～プログラム～

- 14:30 開会挨拶 関西文化学術研究都市推進機構 理事 大谷 康則
14:40 けいはんなR&Dコンソーシアム活動状況
及びイノベーションハブについて
推進機構 新産業創出交流センター長 湯瀬 敏之
14:50 けいはんな学研都市ならではのフードテックの取組について
推進機構 特命参与 小田 一彦

～特別講演～

- 15:00 「海外の視点からみた日本の食文化」
立命館大学 食マネジメント学部 教授 南直人先生
(経歴/講演要旨)
京大文学部卒、阪大大学院文学研究科博士後期課程中退、博士(文学)
京都橘大学教授等を経て、現在、立命館大学教授、2024年から和食文化学会会長。
海外旅行者に人気の和食は、寿司に加え、ラーメン、カツ丼、おにぎりなど多様化。
「日本食=健康」のみならず、海外視点での日本食文化の解釈をご紹介します。
- 16:10 「料理と科学の本質」
京料理 木乃婦 主人 高橋 拓児氏
(経歴/講演要旨)
料亭「吉兆」創業者の故湯木貞一氏に師事した後、京料理の老舗「木乃婦」にて
指導を受け三代目を継ぐ。世界の調理法や食材を取り入れた新しい京料理を展開し、
博士(食農科学)として大学で教鞭をとるなど活躍中。京料理と科学は相性が良く、
新しい料理を発見しやすい一方、構造破壊の危険もあり両面性をご紹介します。
- 17:10 閉会挨拶



南直人先生



高橋 拓児氏

参加のお申し込みはQRコードまたはURLから
https://www.kri.or.jp/contact/rdic_forum2024.html
公益財団法人 関西文化学術研究都市推進機構
産業・イノベーション推進室

RDMM 支援センター

主催：公益財団法人 関西文化学術研究都市推進機構
共催：公益社団法人 関西経済連合会
後援：京都府、公益財団法人 国際高等研究所、
けいはんな情報通信オープンラボ研究推進協議会
協力：学研フードテック共創プラットフォーム



けいはんな
学研都市



RDMM 支援センター

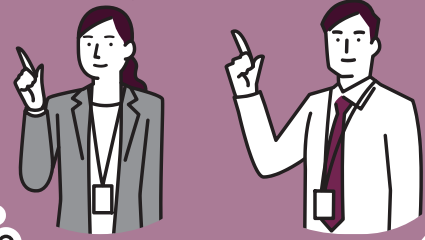
関西文化学術研究都市推進機構では、持続的なイノベーション創出を目指し、新たな研究開発に向けて産学・産産連携の支援を行うRDMM支援センターを設置し、以下のようなサポートサービスを実施中!

Clubけいはんな サポートサービス

生活者目線を研究開発に活かし

新規事業創出に欠かせない

「マーケットの本質」探索をサポートします。



Keihanna
Science City

Clubけいはんなサポートサービスは生活者目線を新ビジネス創出に組み込むサービスです。

K-PeP

ご利用料金

- ・基本分担金 10万円 / 年
- ・その他、実費

優れた道路環境と立地施設の協力

インターネットアンケート

Clubけいはんな会員の全員もしくは抽出した一部よりWeb調査で質問に答えて頂く



ヒト試験

人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針に基づき、ヒトを対象とする試験で有効性や安全性を客観的に示すためのエビデンスを取得する



実証実験

Clubけいはんな会員に社会実証実験のモニターとなって頂き、実用化に向けた意見を頂く



プロトタイプ評価

Clubけいはんな会員数名のメンバーで構成し、議論しながら企業が作成した試作品の評価を行う



これまでの活動例

Web調査

ワークショップ

実証実験

・日常生活の中での健康との関わりについて / 京都スマートシティエキスポ けいはんなデジタルツイン住民ワークショップ 遊覧誘導アプリを使ったフィールド実証(遊覧訓練) どの生活習慣が関連するか 京都スマートシティエキスポの知名度



住民協力による実証・評価が可能

あなたの声を研究開発に活かそう!
Club
けいはんな
Keihanna
Science City



お問い合わせは

公益財団法人 関西文化学術研究都市推進機構
産業・イノベーション推進室

RDMM 支援センター

〒619-0237

京都府相楽郡精華町光台1丁目7

けいはんなプラザラボ棟3F

Email:rdmm@kri.or.jp

URL:www.kri.or.jp/rdmm/



施設の共同利用で研究開発コスト低減

構内テストコース

共同実験室

路上設備

警察・行政の支援を得て素早い対応が可能



オープンで誰でも利用でき、
自社に必要な研究・開発を
自由に行えるプラットフォーム

各社が乗りあう実証実験内容例



けいはんな公道走行実証実験プラットフォーム
(Keihanna Public road experimental Platform)

K-PeP